いわて未来づくり機構だより～第9号～

発行日　平成22年12月21日

「いわて未来づくり機構」は、県内各界、各層の組織の横断的かつ意欲ある「参画」「連携」を実現し、さらに、各組織の智慧を結集し、スピード感を持って「実践」することにより、地域の総合的な発展を目指す新しいネットワークです。

会員の皆様には、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。いわて未来づくり機構だより第９号をお届けします。
本号では、11月26日に開催された平成22年度第２回ラウンドテーブルの内容を中心に報告いたします。
今後とも、機構の活動に御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

事 業 報 告

H22第２回ラウンドテーブル

平成22年11月26日(金)、岩手銀行本店において、平成22年度第2回ラウンドテーブルが開催されました。

まず初めに講演が行われました。講師は、野村アグリプランニング＆アドバイザリー㈱の西澤隆取締役社長。「地域再生とアグリビジネス」と題して講演いただきました。講演には、岩手経済同友会などからも、多数ご参加いただきました。

次いで、ラウンドテーブルメンバーに西澤講師を交えて、講演の内容を踏まえながら、地域活性化などについてディスカッションが行われました。

その後、ラウンドテーブルメンバーと事務局メンバーとで、機構の今後の方向性などについて活発な意見交換が行われました。

第２回ラウンドテーブル講演の概要

■講師：西澤隆氏　「地域再生とアグリビジネス」

私は、これまで20年間、エコノミストとしてGDPの予測などを行ってきた。最近の4、5年は、日本にとって最大のテーマである「人口減少」「少子高齢化」にどう立ち向かえばいいか考えてきた。

この大きな社会構造の変化は、新たな産業や新たなビジネスの可能性をもたらすのではないか。

人口減少により、2015年以降、全国で家が余ることになるだろう。特に余ると思われるのは、郊外の4LDKで、2世帯に1世帯は、高齢の単身者か夫婦2人の世帯になる。

郊外に住む高齢者は、車の運転がつらくなれば、街中に居住したくなる。住みたい街のベストスリーは、①バリアフリーの街で、②駅地下のウオーキングができる商店街、③医療介護施設、があるところだ。これを機能として街中につくる。

日本人は、過密=高密に対する否定的な感情があるが、コンパクトシティ(高密都市)には、3つのメリットがある。①財政効率を高める、②車を使わないのでエコになる、③サービス業の生産性が上がる。

コンパクトシティの例として、九州の佐世保市の商店街は、日本一長い直線距離があるが、市民病院までアーケードを延ばして、人の流れをつくった。暑い夏や雨の日でも自然と商店街に人が足を運ぶ。

また、富山市では、高齢者に街中居住を促がし、その足としてライトレール(路面電車)を整備している。

それでは、コンパクトシティで効率化したとして、どこで稼ぐのか。財政の安定と産業育成は必ず必要だ。観光は、余り儲からない。企業誘致もずっといる保障はない。ハイテク産業は雇用が少ない。

国際的に食糧需要が爆発するとされている中で、国内では耕作放棄地が増え、担い手がいなくなり、自給率が下がって、つまり需要が増えるのに供給が減るという、アグリビジネスほどギャップのある産業は少ない。

アグリビジネスは、距離が絶対的な付加価値になる唯一の産業である。例えば、朝採りの大根は、高く売れる。

アグリビジネスでは、加工産業を大事にしなければならない。計算上、２次産業に分類されている部分に、ものすごい付加価値があるかもしれない。

カゴメや和民など大手も農業に参入しているが、全くの異業種から生産活動に入ると大抵失敗している。

群馬県の人口４千人の川場村では、世田谷区と縁組をし、レンタルアップルといって、リンゴの木を貸している。食べきれないリンゴは、ご近所に“おすそ分け”され、それが宣伝になっている。史上初めて合併しないで過疎指定から外れた。

弊社では、全国に173か所の営業所を持っている強みを生かし、地域とともに産業や会社をつくるお手伝いをしたい。

農業生産は、専門家に任せ、地方自治体、大学、金融機関、事業会社と連携しながら、地域限定の情報を活用し、お金の回し方、金融のスキームをつくっていきたい。そこまで持ってくるお手伝いが、弊社のミッションと考えている。

岩手のモノ紹介コーナー

アイーナ３階のいわて希望プラザでは「岩手のモノ紹介コーナー」として、Made in IWATE のモノ（商品、技術、サービスなど）と、そのモノに対するこだわりを広く情報発信しています。

第５弾【 高松武雄太鼓店 】

夏を告げる音 さんさ踊り
太鼓づくり 55 年

１万人が参加する太鼓パレードも名物となり、夏になると盛岡の太鼓店は大忙し！さんさ踊りの太鼓が他と違うのは音の反響の長さ。太鼓の後ろに続く踊り手さんが踊りやすいように、また、世界一の太鼓パレードを成功させるために、音の微妙な調整が必要です。

【 花王堂 】 第６弾

さんさ踊りを華やかに彩る
花笠づくり 80 年

さんさ踊りでもう一つ欠かせないのが花笠。80 年前から花笠を製作している花王堂さんが手がける数は、修理も含めて年に約200 笠。近年は布製が主流ですが、昔ながらの紙製も製作しています。紙製の花笠も花びら一枚いちまい型抜きから染めまで手づくりしています。

今後の予定

■ 企画員会の設置について

第２回ラウンドテーブルにおいて、ラウンドテーブルと作業部会をつなぐ企画調整機能を強化するため、新たに機構の活動の方向性や内容の企画・調整を担う「企画委員会」を設置することとされました。次回のラウンドテーブルで具体案が検討されます。

■ 第３回ラウンドテーブル

日時：平成 23 年１月 31 日（月）
15 時～17 時まで
会場：岩手県庁　12 階特別会議室

いわて未来づくり機構　事務局からのお知らせ

会員各機関の代表者及び担当者名、メールアドレス等に変更がございましたら、アイーナ事務局の和山・大友までお知らせください。

電　話：019-606-1775（FAX 兼用）　E-mail：daihyo@iwatemirai.com　〒020-0045　盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
ホームページ　http://iwatemirai.com/　会員用ホームページ　http://iwatemirai.com/xoops/